

7月4日「すべての人のための祈り」 I テモテ2：1～7

今日の手紙は祈りについて第一にこう教えています。「**願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい**」今日はこの言葉から二つのことを考えたいと思います。

1、「願いと祈りと執り成しと感謝とをささげなさい」

「願い、祈り、執り成し、感謝」これらは密接に繋がりにありますので、それぞれを個別に考えることは難しいですが、すべて祈りの要素です。祈りを神にささげるのが私たちに第一とされていることです。今日の日課ではマタイ福音書からは「**求めなさい、そうすれば与えられる**」が選ばれていました。イエスもまず「求めなさい」と教えられます。ところで、以前の教会で「神はすべてをご存じなのに、どうしてわざわざ口に出して願う必要があるのですか？」と聞かれたことがあります。なるほど、確かに・・・とも思えます。私なりに考えてみたのですが、それは祈りを神への一方的な語りかけだと考えているからではないでしょうか？一方的におしゃべりするるのであれば、確かにもう知っている人にあえて話す必要はないかもしれません。けれども、祈りは「対話」です。私たちが語るだけではなく、神からの言葉を「聴く」ことでもあります。だから、祈りはなるべく一人きりになれる静かな場所で（気が散ったりしないようスマホなどの電源は切って）祈るようにとあらゆる祈りの本で勧められています。メソジストの創始者ウェスレーはお祈り用の小さな小部屋で祈ったそうですし、マザーテレサも毎日どれほど忙しくも1人で祈る時間を欠かさなかったと言います。

また、なぜあえて求めるのか、というと「願う」ことはその次の「行動」へと移される一つのプロセスだからではないでしょうか？ 今期話題だったドラマ「ドラゴン桜2」の原作漫画の最終回でこんなセリフがありました（ちょっとうろ覚えです）。「東大に入るのに1つだけ条件がある。それは東大に行きたいと最初に思うことだ！ 行きたいと思って行動を起こさなければ合格はありえない」私たちの行動の原動力にはまず願い、求めることがあるのです。だから、イエスは言われるのです。神に「**求めなさい。探しなさい。そして門を叩きなさい。**」

そういう意味でイエスは素敵なお話を教えてくださいました。神さまに願う時には「アッパ、父よ」と親しく呼びかけても良いと。そして、ご自身も実際に「アッパ、父よ」と祈られました。確かに、人によっては創造主である神様に私たちのちっぽけな願いなどしても良いのか、という気持ちになられる方もいるかもしれません。けれども、私たちは神の子イエス様に赦されて、またイエスによって私たち自身も神の子とされて、神さまに「アッパ！お父ちゃん！パパ！」と呼びかけることが出来ます。だから、まず私たちは求めるのです。

2、「すべての人々のためにささげなさい」

私たちは祈りを誰のために捧げるのか。自分のため？家族や隣人のため？いいえ、すべての人のために献げる、これが教会にとって一番大切な働きだとテモテの手紙は伝えます！皆さんも普段お祈りをされると思いますが、どんな祈りでしょうか？少し振り返ってみると、どれほど自分の興味関心のみで支配されているか、また、利己的な思いで支配されていることか、に気付かされます。しかし、教会の祈りとはそうであってはならない。すべての人のものでなくてはならないのです。

今日のテモテの手紙はパウロの弟子が、教会の人々を指導するために語ったもののようです。手紙の最初は警告から始まります。「1:3~4 あなたはエフェソにとどまって、ある人々に命じなさい。異なる教えを説いたり、作り話や切りのない系図に心を奪われたりしないようにと。このような作り話や系図は、**信仰による神の救いの計画の実現よりも、むしろ無意味な詮索を引き起こします。**」パウロよりも少し後の時代、教会の中には様々な作り話や異なる教え、系図による権威争いで混乱していたようです。ちょうどコロナ禍による社会の不安で、根拠のない噂やデマ、陰謀論が飛び交う私たちの社会と重なります。そのことへの危機感からこの手紙は書かれたようです。それでも「すべての人」ですから、教会の内にいる混乱を起こす人たちのためにも祈ろう！そう手紙は教えます。

また、2節にはこうありました。「**王たちやすべての高官のためにもささげなさい。**」高い税金をむしり取り、キリスト者たちを迫害したり、時には

皇帝への崇拝を強要するような地上の王たち、ローマ皇帝のためであっても、その人のために祈りなさいというのです。それは2節「わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穩で落ち着いた生活を送るため」だと言うのです。私たちの心を騒がせるものはたくさんありますが、最も私たちの心を騒がせるものは、憎しみ、怒り、特に近しい者とのこじれてしまった関係ではないでしょうか。イエスの言葉です。「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。(マタイ5:23~24)」イエスは祭壇にものを献げる前に、兄弟や近しい隣人との和解を神に捧げなさいと教えられました。私たちも本当に落ち着いた心で祈りを献げることを願うならば自然と隣人との和解へと導かれます。

先日ジョシュアさんが出版された『キリスト者として生きる』の中で祈りについてとても面白いことが書かれていましたので、紹介します。

「祈りとは、あなたの内でイエスに祈ってもらうことであり、しばしば非常に困難で長い道りを歩み始めることなのです。この道りを通して、私たちの利己的な考えや理想、願望が、イエスの永遠の働きと徐々に一致するのです。(ローワン・ウィリアムズ『キリスト者として生きる』96頁)」私たちの祈りが、イエスと一致するようになっていく、とはとても大胆不敵な印象も受けますけれども、今日の聖書でも同じようなことが言われていたと思います。

「4~6節 神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。」なぜ、私たちの祈りがすべての人のためのものなのか？それは、神がすべての人を救うことを望んでおられるからなのです！憎たらしいあの人のことも。教会の内部でデマを流し、混乱を起こす人のことも。重税を課し、支配しようとするローマ皇帝のことも。そして、こんなに罪深くちっぽけな私のことさえも神さまは愛して救いの道へ

と招いてくださる。この神の救いの意思と私たちの思いを一致させるために、私たちもすべての人のために祈るのです。そういう意味で、祈りとは私たちが平和へと導く道なのです。「敵を愛しなさい」「赦し合いなさい」このイエスの言葉が、私たちの祈りと重なっていくとき、私たちの祈りがイエスの祈りとなっていくのです。

私が赴任してから、説教後の牧師の祈りは「とりなしの祈り」と位置付けることにしました。礼拝の中で「とりなしの祈り」と言えば、それはすべての人のための祈りのことです。私たち自身のことにも内容には含むこともあります。「すべての人のための祈り」となるように、いつも準備しています。皆さんとも、「**願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい**」との御言葉を受け取りながら、共に祈っていければと願います。